

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2770801203
法人名	アミコ株式会社
事業所名	いこいの守 東住吉
所在地	大阪府大阪市東住吉区矢田7丁目12番32号 (電話) 06-6797-7677

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 13.76人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(2500000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1650円			

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人慈心会あびこ病院・玉田歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

あびこ病院を母体を持つ当該ホームは、住宅地に立地し周りには畑や自然が多く残っています。ホームに入ると、キッチンが中央にあり一回りできるようになっており、明るく大きな窓からは自然の光が多く差し込み、ゆっくりとソファーに座って外の景色や畑が見渡せ、畑では季節の花や野菜などを育て、広いテラスでは、お餅つきや流しそめんなどを楽しむ環境が整っています。また、職員は利用者を家族の一員として思い、目線を合わせたケアを基本にお互いが何でも言い合える関係を築きながら、その人らしく穏やかに過ごせるよう支援しています。また、職員同士の連携がよく取れており相談事や意見が言いやすく退職者もおらず働きやすい環境が整い、常に前向きに取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果の課題については改善に向けて話し合っています。地域密着としての理念を職員と話し合い分かりやすい言葉で作りました。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、項目について職員に意見を聞きながら、計画作成担当者と管理者がまとめました。更に外部評価を受ける事で、気分を引き締め自己の見直しや話し合いを持ち改善に取り組んでいます。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や町会長、婦人部長、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、法人の同地域にあるグループホームと合同で開催しています。各事業所からの行事・活動報告をして参加者からの意見や質問を頂き、意見交換を行ない有意義な場となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム玄関に紙とペンを添えた意見箱を設置しています。なかなか意見や要望が出ないのが現状ですが、来訪時には言いやすい雰囲気心がけています。今後、家族と一緒に話し合う機会を持ち、共に利用者を支えていきたいと考えています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、回覧版が回ってきます。盆踊りや敬老会に参加したり、ボランティアの方々が週に1回の来訪には、話し相手やゲームに参加してもらい一緒に楽しい時間を過ごしています。また、ホーム前の障害者施設のお茶会にお誘いしてもらっています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「笑顔・信愛・憩い」を基に、「今日も笑顔と真心を」をグループホームいこいの守東住吉、独自の理念を職員で話し合い作りました。地域の方と買い物や散歩で出会った時には、コミュニケーションをとったり笑顔で挨拶が出来るようにとの思いも込められで作りました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロア入口に掲示しています。管理者が中心となり、笑顔で生活できるためのケアを実践できるよう、ケアプランを考えたり、日々の話し合いの中でも意識しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板が回ってきます。盆踊りや敬老会に参加したり、ボランティアの方々の来訪が週に1回あり、話し相手やゲームに参加してもらい、楽しい時間を一緒に過ごしています。また、ホーム前に障害者施設があり、お茶会にお誘いしてもらっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、職員に項目についての意見を聞きながら、計画作成担当者と管理者がまとめました。外部評価を受ける事で、気分を引き締め自己の見直しや話し合いを持ち改善に向けて取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や町会長、婦人部長、包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、法人の同地域にあるグループホームと合同で開催しています。各事業所から行事・活動報告を行ない、参加者からの意見や質問を頂き、話し合いながらサービスの向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の職員とは、電話連絡や困難事例があったときなどに相談をしています。また、書類の手続きなどで市の職員の来訪があります。	○	市町村担当者とホームの運営状況を知ってもらい、サービスの向上につなげていく相談ができるようになるためにも、運営推進会議の議事録を持参する等、話をする機会を持ってみたいかがでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、直接ホームでの様子を伝えていきます。毎月、ホームでの様子や連絡事項を書いた手紙と立て替え金で対応した金銭管理の報告書と領収書を請求書と一緒に郵送しています。また、写真を載せたホームからの手紙を作り、より利用者の様子が伝わるように改良することを検討しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に紙とペンを添えた意見箱を置いています。また、家族の来訪時には言いやすい雰囲気でのコミュニケーションを取っています。今後、家族の状況もありますが、家族と一緒に話し合う機会を持ち、共に利用者を支えていきたいと考えています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は、退職者はおらず法人内の異動もないため、馴染みの関係が出来ている職員での支援を行っています。年齢層の幅が広く職員同士で相談や意見交換ができる環境が整っています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には出来るだけ参加できるようにしています。職員不足であり参加できていませんが、参加後は報告書を記入し回覧しています。今後、法人合同での研修計画を立て参加できるように検討しています。	○	職員不足で時間の調整が大変ですが、食中毒などの季節や、状況に応じた研修などを、ホーム内での研修計画として立て取組まれることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉区グループホームネットワークに参加しています。年間計画を立て職員の交流会や見学会、グループホームの空き状況などを報告し交流に努めています。他のグループホームの良かった点などを話し合い、サービスの向上に取り組んでいます。また、消防署立ち会いの基、防火についての研修を予定しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前は、家庭訪問をして以前の暮らしについての情報を得ています。また、出来るだけ家族と利用者が見学に来てもらえるようにしています。利用者が納得がいくまで何度も見学に来られたり、一緒にお茶の時間を過ごしてもらい、雰囲気に馴染んでもらえるようにしています。入居後は、家族に来訪してもらい、見守りや声掛けで対応できるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に生活する中で、目線を合わせるケアを基本に、生活歴を大切にコミュニケーションを取りながら、利用者を理解し何でも言い合える関係作りに努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前、家族や利用者からの情報、会話からも気持ちを汲み取っています。月に2回の職員会議で話し合い一人ひとりの思いの把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用し始めたところで、家族やかかりつけ医、職員からの意見やアイデアを聞きながら介護計画を作成しています。今後、もっと家族と一緒に介護計画が作成できるように取り組みたいと考えています。	○	本人の状況や家族、医師などの関係者の意見を集約しセンター方式に記入していきながら情報を整理し、介護計画に反映していくことを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本、見直しは6か月に1回としていますが、追いついていないのが現状です。モニタリングを3か月に1回行い、カンファレンスでサービス内容やケアプランを振り返り、日々の記録や特記事項などを参考に見直しをしています。毎日をケアプランと職員に意識付けながら取り組めるように検討しています。	○	今後、職員会議とカンファレンスを同時に行ない、見直しを確実に出来るように検討しています。利用者の担当制なども取り入れ、考えながら定期的に見直しされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に合わせた買い物や入院中の家族のお見舞い、行きたい所を聞きながら外出の支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医を聞き、相談して継続するかを決めています。提携医からの往診は週に2回あり、24時間相談や連携が取れることもあり、家族や利用者と一緒に相談し納得した上で医療を受けることができるよう支援しています。月に1回の訪問歯科や週に1回の歯科衛生士の訪問が定期的であり、必要時には、訪問看護が利用できるようにしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に、家族や利用者にホームとして出来ることについて話しをしたり、「体調の重度化した場合の対応に係る指針について」を書面化し説明した上で同意をもらっています。現在も重度化した利用者があり、医師や家族、職員と話し合い取り組んでいます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は、事務所の鍵のかかるロッカーに保管しています。言葉使いが乱れた時や慣れなれしくなった時には、職員からの自己反省や自己申告の意識があり、その思いを大切にしながら管理者と話す機会を持ち改善につなげています。また、職員同士でもその都度注意し合っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から睡眠まで利用者のペースや希望に応じた生活を支援できるように心がけています。その時の状況に応じて声掛けを行い、利用者の希望に応じた一日を過ごしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意思や残存能力を大切に、できることに係わってもらっています。包丁を使用したり、炒めたり、味付け、下膳、食器拭きなどを一緒にしています。職員も利用者と同じテーブルに着き同じものを食べ、自然な流れで声掛けや食事介助をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットごとに違う曜日に週に2回の入浴日を決めていますが、違うユニットでも入浴ができ、昼食後から16時ぐらいまでゆっくりと楽しめるように支援しています。また、希望があれば回数を増やしたりシャワー浴や足浴、清拭などにも対応しています。拒否傾向の利用者には、時間をおいての声掛けなど職員の上手な対応で入浴をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や下膳、食器拭き、居室の掃除、洗濯干し、たたみなどを役割や楽しみとしています。また、塗り絵や計算ドリル、文通、詩吟なども楽しんでいます。利用者からの役に立ちたいとの思いがあり「何かしようか、手伝おうか」と声掛けがあり、やりがいを持って行ってもらっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など車椅子を利用して出かけています。近隣の公園に出かけたり、散歩を兼ねて近隣の美容院に髪に行っています。また、テラスで野菜や花などを植えたり、ソーメン流しやお餅つきなどをする環境があり、ホームの中だけの生活にならないように支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前が車の通りになっていたり、防犯上の安全のため鍵は掛けています。利用前、家族に状況を説明しています。職員は、鍵をかけることの弊害は理解しており、鍵をかけない時間も作っていますが、もっと増やせるように考えています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自の自主訓練や避難経路のシュミレーションを話し合っています。4月には消防訓練を予定しています。	○	一人体制や夜間想定、地域の協力を得るためにも呼びかけはしていますが、一緒に参加してもらえよう、運営推進会議で話し合われてみてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や1Lの水分量が摂れるように目標を決め、記録にも残しています。業者の立てた献立と食材で栄養やバランスが取れた食事を提供しています。また、利用者の状況に応じたおかゆやミキサー食、キザミ食で対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、手作りカレンダーや行事の写真、花の写真、花など季節がわかるような飾り付けを心がけています。明るく自然の光が差し込むリビングの中心にキッチンがあり、一周できるようになっており、テレビの前やテラスの前にソファを置き外の景色を見たりゆっくりと過ごせる空間があります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた筆筒や鏡台、テレビ、椅子、絨毯などや大切にしていた仏壇や家族の写真などを持ち込んでもらい、一人ひとりに合わせ居心地よく過ごせるように工夫しています。また、利用者の居室がわかるように一緒に作った表札を掛けています。		